

令和4年度事業計画

公益社団法人 Knots

当法人の活動目的は、人も含めた全ての動物達を幸せにすることである。そのためには、人も動物もより良い形で共生出来る社会の構築が必要となる。そこで、当法人は人と動物のより良い共生を進めるための啓発、教育、研究事業、そして目的を達成する為に必要なあらゆる事業を国内外のその分野の関係団体、専門家、行政機関等に幅広く連携を求めて実施していく。

昨年は新たに「SDGs 推進事業—One World, One Life」が公益事業として認定された。阪神・淡路大震災の経験から始まった当法人の成り立ちと歩みに改めて向き合い、「One World, One Life」のテーマに基づき、「ひとつひとつの命の幸せに寄り添う社会」に向け、本年も、真摯に事業に取り組んでいく所存である。この概念は、誰一人取り残さない社会を目指す国連のSDGsの17の目標を達成するため、日本でも政府が“「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現”をキーワードに、あらゆるステークホルダーの参画を重視し、官民の垣根を超えた形で連携を推進する方針を掲げているが、これと同じ世界を目指すものである。ステークホルダーとして、SDGsの推進にも貢献していきたい。

1. 啓発事業

人と動物のよりよい共生を進めるための知識の普及啓発や情報交流、情報提供を行うために、国際会議、シンポジウム、セミナー、展示会、イベント、ドッグスポーツ大会等を幅広く一般の人々を対象に実施するとともに、災害発生時には緊急的に被災者支援を行う。

正確な情報をよりの確に提供出来る様、開催にあたっては、国内外のその分野の関係団体、専門家、行政機関に幅広く協力を求め、連携のもとに行う。

また、人と動物のより良い共生に尽力した企業、団体を表彰する機会を設けたり、商品の製造、販売を通して、野生動物の有効活用事業の啓発を行い、人と動物のより良い共生の推進を図る。その他、人と動物のよりよい共生を進めるため、個人、団体、企業、行政等対象に人と動物の共生に係るコンサルティングも必要となるために動物取扱業（展示）が必要となる。

(1) 神戸 全ての生き物のケアを考える国際会議 (ICAC KOBE) One World, One Life

阪神・淡路大震災15周年を契機に、人も含めた全ての動物の「命」に対する責任について考え、人及び動物が幸せに共生できる社会の構築を目指し、震災で多くを学んだ神戸の街から、情報交流、情報発信を行っていく為に2年に1回実施予定。「お互いの存在に『感謝』し、生ある限りは『幸せ』に暮らすこと。それが、いのちに対する『責任』である。」とし、生きとし生けるものが、この地球上で幸せに暮らせる社会にしていく為、様々な専門分野の連携のもと、私達人間に来ることを幅広く議論する場を提供する。One World, One Life とは「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく」という概念であり、各々のいのち

に寄り添う社会構築に向け情報交流、発信を図る。会議の発表内容は後日、日英両文にてウェブ上に掲載し、無料で閲覧出来るようにする。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で開催の見込みが立たず開催できなかったが、本年度は新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、開催する場合にはオンライン開催等も検討したい。

また、この国際会議の認知度を高めるために、国際会議の動物キャラクターを活用して動物キャラクターグッズ（アイテム）等を活用し会議の周知を図る。令和元年度供用開始をしたLINEスタンプを引き続き活用していく予定である。

（２）りぶ・らぶ・あにまらずシンポジウム

2001年より開催。国内外の人と動物のより良い共生に関わる様々な情報をシンポジウムを通して提供している。参加費は原則無料にし、学生、一般の方などに広く参加を呼びかけている。当日の発表内容は後日、ウェブ上に掲載し、無料で閲覧出来るようにする。当年度の開催は予定しない。

（３）セミナー、講演会

人と動物が幸せになるために必要な、共生に関わる様々な情報を提供し、より良い共生の推進の一助とする。

シンポジウム同様発表内容については、出来得る限り、ウェブ上に掲載し、後日無料で閲覧出来るようにする。

（４）ドッグスポーツ大会「りぶ・らぶ・あにまらずフェスティバル」

2001年は、パブリックフォーラムとして開催し、翌2002年より初心者向けドッグスポーツ大会（飼い主さんと愛犬と一緒にフリスビーやアジリティ（障害物競走）、ダンス、カニクロス（愛犬と一緒に走るレース））として、開催。

2009年からは、毎年春に行っていた「Y2 Day with Dogs」とジョイントし、動物に関わる様々な団体のご協力のもと、ドッグスポーツ大会と一緒に開催していた補助犬、ワーキングドッグのデモンストレーション、ライブ、神戸市犬譲渡制度のPRなどステージプログラムや展示も同時開催。

2016年からは、六甲山カンツリーハウスとのコラボレーション事業として開催している。飼い主さんと愛犬に一日楽しく過ごして頂きながら、動物と暮らすことの楽しさを実感して頂き、且つ、来場する犬達には、狂犬病の予防接種を条件付けており、啓発にもなっている。飼育マナーの向上や世代間交流の一助とし、人と人、人と動物の幸せな共生社会の構築に寄与するために毎年継続事業として行っている。

また、イベントとして行うことで、様々な事情で飼育が出来ない子ども達にも動物愛護教育の場として、活用されている。特に近年では、ペットと暮らすことの双方の生理学的な好影響も明らかになってきており、高齢者や子ども達への、心理的・教育的影響とも合わせ、人類が長い歴史の中で培ってきた生物としての共生関係に基づく、人とペット双方の心身の健康への貢献についても情報共有を図る。

令和元年度より、ドッグスポーツ大会と一緒に開催していた補助犬、ワーキングドッグのデモンストレ

ーション、ライブ、神戸市犬譲渡制度のPRなどステージイベントは、公益社団法人神戸市獣医師会、神戸市動物愛護協会、公益社団法人 Knots の3団体で構成する実行委員会を設置し、動物愛護フェスティバルを行ってきた。令和2年度をもって神戸市動物愛護協会が活動を終了されることとなり、実行委員会の構成団体等は未定であるが、昨年度の神戸市動物愛護フェスティバル2021は11月23日（祝・火）、しあわせの村（神戸市）で開催予定だったところ、新型コロナウイルスの影響により開催できなかった。

運動会&ゲーム大会は六甲山カンツリーハウスドッグラン事業と連携した開催とし、人と動物の共生情報発信拠点構築の一助とする。昨年度は六甲山カンツリーハウスドッグラン事業は縮小され、イベントとして行う形式で調整中であったが、新型コロナウイルスの影響で開催に至らず、当年度も開催日については未定である。

開催日：未定

開催場所：神戸市動物愛護フェスティバル（未定）

（5）ずっと一緒に居ようプロジェクト

ずっと一緒に居ようプロジェクトは、フェスティバルのメンバーが発起人となり、東日本大震災での飼主さん支援が発端となって始まった。震災での緊急時のみならず、平時においても人と動物が絆を保ち幸せに暮らせるような社会システムを構築するため、その方策を議論研究して提案し、これらの情報を発信、その実現化を支援する。

例えば、2015年の国際会議（ICAC KOBE）では、分科シンポジウムの中の1つとして「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム—伴侶（家庭）動物の暮らしを地域活性へ」というテーマで数名の方の発表があり、人と伴侶動物が地域で共に幸せな生活ができ、尚且つそれが地域の活性に活かされるような社会システムを構築することができるのか、その可能性について考察した。このシンポジウムの成果は、論文にまとめ、シニア社会学会誌に掲載されており、全文をウェブサイトにて公開、情報を発信し、その実現化を支援している。

（6）りぶ・らぶ・あにまらず賞

人と動物の共生に尽力されている商品や企業活動を高く評価すると共に、感謝の気持ちを伝える。対象期間は1年間、毎年一般の方々の応募により、ノミネートし、選考委員の投票によりグランプリを決定する。近年、人と動物の共生に向けての事業が多様化し、同一の賞の中で判断が難しくなったこと、共生意識の高まりによって敢えての推薦が少なくなったことから、令和2年度をもってこの事業は休止とした。

（7）イベント、ドッグスポーツ大会 六甲山カンツリーハウスわんわんドッグフェスタ運営協力

期間限定のドッグラン、ワンちゃん大運動会、ゲーム大会等の運営協力を行う。

本事業に、沢山の飼い主さん、ワンちゃんにご参加頂くことで、動物と暮らす楽しさ、幸せを実感して頂く。

ひいては、より良い共生推進の一助となる。また、利用者には、狂犬病予防法の遵守を条件付けており、啓発にもなっている。令和3年度より六甲山カンツリーハウスドッグラン事業の縮小により、常設のドッグラン運営ではなく、ワンちゃん大運動会等のイベント開催時のみの運営となったが、新型コロナウイルスの影響により開催できず、今年度も休止とする。

(8) 野生動物有効活用推進事業

近年、日本の各地でシカ、イノシシなどの増えすぎた野生動物による農村部での森林被害、農業被害が深刻化している。そのため、多くの野生動物達が、自然環境や生態系を守るために、有害鳥獣として捕獲されているが、その殆どが活用されないまま産業廃棄物として処理されている。兵庫県では、その処理費と農業被害額は、算出すると合わせて約20億円にもものぼると言われる。

(例：兵庫県では、年間3万頭のニホンジカが捕獲されている)

このような問題に対処し、動物達の「命」を無駄にしないためにも、彼らの肉や骨、皮などを有効に活用していくことが、地域振興や新しい産業の創出の可能性を含め、現在大きな課題となっている。

この有効活用を進めることで、産業が生まれ、雇用機会の創出につながり、ひいては生産者の方々の生活向上の一助となる。また、自然環境や生態系が保全されることにもなる。

Knotsでは、有効活用推進のために、情報提供や犬用おやつの開発、製造、販売に取り組んでる。開発、製造には、障害者の方々のみならず、実際に農業被害を受けておられる土地で生活されている主婦グループの方々にも参加して頂いており、新たな産業の創出や地域振興に挑戦している。

添加物等一切加えず、天然由来の原料で製造した、これらのおやつは品質が良く、愛好家も多い。これらの商品を手にとって頂くことで、野生動物のおかれている現状に一般の方々にも目を向けて頂くことにつながる。

また、Knotsは、「野生動物研究会」※(事務局：兵庫県森林動物研究センター)の幹事を務めている。

※野生動物研究会(旧ニホンジカ有効活用研究会)とは、

兵庫県森林動物研究センターと、兵庫県内でシカ肉の有効活用に取り組んでいる企業、団体、個人が研究会を組織し、当時最大の課題であったシカ肉利用促進に向けた情報の収集、共有を図ることにより消費者のニーズにあった供給体制を研究し、シカ肉利用に関する正確な情報発信を行うことにより、需要の拡大を図り、野生動物資源利用を通じた地域振興と人と野生動物のより良い共生社会の構築に資する研究会事業を行っていたが、シカ肉については、流通に掛かるネットワーク組織も立ち上がった為、野生動物全般に掛かる共生研究へと対象を広げることになった。

(9) 各種コンサルティング、相談業務の実施

動物と安全に楽しく暮らすための相談対応、ペット可集合住宅での管理組合、管理会社のサポート、野生動物との関わり方等人と動物の共生に係る様々な相談に対応。また、人も動物も快適な住まいや旅行等の商品開発の為にコンサルティングを実施。人と動物のより良い共生を推進し、人も動物も幸せにする為に、必要な相談及びコンサルティング業務を行う。

(10) Knots MODEL CLUB

テレビや雑誌などから紹介(出演)の問い合わせが多くあったことから、これを市町村への犬の登録、狂犬病予防接種など病気予防と健康管理、しつけなどを条件として本法人で登録し、ウェブサイトにて無料で公開することで飼主さん自慢の犬が、モデル的に伴侶動物として大切にされている姿を見て頂き、広く一般の方々にも、人と動物の幸せな共生を見て頂くことで啓発する。

(1 1) 情報提供事業

主にウェブサイト、メールマガジン等を通して、幅広く不特定多数の方々に人と動物の共生に関わる様々な情報を提供していく。

今年度予定：動物感謝デー出展（公益社団法人日本獣医師会主催）

ペット産業情報新聞「PIIA Knots リレー・エッセイ」記事連載

「人と(人以外の)動物の幸せな共生」をテーマに、識者の方々によるエッセイ

2. 教育事業

人と動物のより良い共生を進めるために役立つ情報を、主にインターネットを通して幅広く提供。実施した会議やシンポジウム、講演会等の貴重な内容については、可能な限りウェブサイト上で、日英両文にて公開し、当日会場に来られなかった全世界の不特定多数を対象に教育の機会を設ける。

また、人と動物のより良い共生を推進する為、一般市民はもとより、関わる専門家、学生等にとっても有益な知識、情報を提供するべく国際会議、セミナー、研修会イベント等を実施、その他学校の教育事業に協力する等、人材の育成、知識の向上、児童及び青少年の健全育成に貢献する。この事業の一環として動物を伴って教育事業を行うこともあることから、動物取扱業（展示）が必要となる。

(1) 情報提供による教育機会の提供

人と動物のより良い共生の推進の為に、開催する国際会議、シンポジウム、セミナー等の内容は全て後日、記録集（可能なものについては、日英両文にて製作）としてウェブサイト上で無料公開し、会場に来られなかった不特定多数の方々へ教育の機会を提供する。機会があれば随時、セミナー、講演会を実施し、情報と教育の機会を提供する。

また海外の文献を翻訳し、人と動物の共生に関わる情報を提供していく。

(2) 講師の派遣

専門学校、セミナー等への講師派遣を随時実施、人材育成、知識の向上及び青少年の健全育成に貢献する。

(3) 奈良県「いのちの教育」連携協定事業

24年度（2012年度）に奈良県と締結した『奈良県いのちの教育展開事業』に於ける連携協定に基づき、奈良県「いのちの教育」プログラムの普及を奈良県と共に推進する。動物を通じた教育は、いのちを大切に、共感力を育む教育として文部科学省の指導要領にも盛り込まれており、アジア型ヒューメイン・エデュケーション構築に取り組み、人も動物もお互いを思いやれる未来へ寄与するものである。この事業は、主に、自治体等の教育に関連する職員等に対してこのプログラムを軸とした研修会、講演会等を実施する。これらの取組みの成果や研究発表はウェブサイトでも多くの方に無料で公開することで教育の機会を提供、また、このウェブサイトを読んだ方への啓発にもなる。この事業を通じて、いのちに対する責任が生まれ、思いやりの心も養われ、豊かな人間性を涵養する。

(4) 教育ツール共有事業

現在、全国の動物愛護（管理）センターなどでは、「いのちの大切さ」や「適性飼養」「殺処分数減少」を目的とした、子どもたちへの教育活動の必要性に対する認識が高まっている。

こうした現状を踏まえ、これまでに各地の動物愛護（管理）センターと共に企画開発を行い、すでに導入されて教育現場で実績のある動物愛護教育およびヒューメイン・エデュケーションに関するツール類を共有する事業を展開する。また、使用実績や実施レポートなどの情報を報告し、日本におけるヒューメイン・エデュケーションの向上と各自治体間の連携の促進を図り、少しでも多くの自治体で人と動物のより良い共生の推進を図ることで、心豊かな社会の実現を目指す。

例えば、「いのちの教育」プログラムのツールは大型張り子版と黒板での実施ができる簡易版があるが、希望する自治体があれば奈良県と本法人の許可を得て、それぞれの自治体の特性に合わせた改良を行って制作・使用することが可能である。そうした方法を取ることで、教育プログラムの企画開発のための余力がない自治体でも、すでに実績のあるツールを導入することができる。「いのちの大切さ」や「適正飼養」「殺処分数減少」を目的とした、子どもたちへの教育活動の普及啓発にとって非常に有益な手段である。

3. 研究事業

人と動物のより良い共生を推進する為に必要な情報収集と研究を行い、その情報を幅広く提供することで、啓発、教育事業を行う。

また、企業、行政、団体等からの依頼により、人と動物の共生に関わる調査研究等実施する。啓発、教育、研究いずれの事業を実施する場合においても、国内外の関係団体、個人、企業、行政機関の連携、協力は不可欠である。

「神戸市人と猫との共生推進協議会」への参画。

4. 障害者の自立支援事業

当法人が販売している安全安心な犬用手作りおやつのはらどはNPO法人おーけすとら・ぴっと就労継続支援（B型）事業所Patch(パッチ)に製造を担当して頂いている。

また、開発より関わって頂き、新商品の開発も共に行っている。2002年にPatchの創設者の方より以下のようなご相談があった。Patchは、障害者の方が製造したものだから、と同情で商品を購入して頂くのではなく、正当な評価のもと、一般の商品と競争出来る商品作りを行うことで、障害者の方々が社会参加出来る作業所を目指している。

そこで、意識の高い飼い主のニーズに合った安全、安心な犬用おやつを販売することが、障害者の方々の自立支援となるのではないかということで、一緒に開発、製造、販売に取り組むこととなった。その後、Patchは製造担当として、品質管理等にも注力され、商品の品質も認められて、今では多くの顧客が定期的に購入をして下さっている。その結果、モデル作業所として認められ、他所からの視察も多い。

また、この事業の推進によって、障害者の方々が仕事に対するやりがいを感じ、当初の目的であった、メンバーの方達の通所費用を賄えるところまで、運営は進んだ。

今後もこういった形での自立支援を行っていきたい。

5. ペットと暮らす住まいに係る支援金助成事業

1. 啓発事業（5）ずっと一緒に居ようよプロジェクトの一環として行う被災した被害者に対するペット可物件への入居費用の助成は、毎年計画的に実施するものではなく、発生した災害が激甚災害として指定された時に緊急的に実施する。ペットと一緒に生活できる環境を取り戻すことで被災者の自立を支援し、被災者が立ち直っていく姿を周囲の方々にも見て頂き、ペットと一緒に暮らすことの大切さを理解して頂くことで啓発にもなる。

助成事業の概要

事業の目的：当法人は、人と動物のより良い共生の推進を図り、人そして動物の福祉の向上に資することを目的としており、この事業は、被災の程度、ペットの種類に関わらず、家族の一員であるペットと一緒に暮らすことができるように、入居する際の費用を支援するために行う。

寄附金の募集：当法人のウェブサイト等で寄附金募集を周知するが、寄附金の用途について、ペット可物件への入居費用に充てることを趣旨とし、併せて支援金の振込手数料等への充当、残金の処理方法についても明示した上、寄附金を募集する。

支給額と残金処理方法：支給額は、集まった寄附金の範囲内で、理事会において決定するが、寄附金の残金が生じないよう努めるとともに、やむを得ず残金が生じた場合は、その後の別の激甚災害の支援金助成事業の原資とし、それ以降も同様の処理をし、目的外使用はできないものとする。

確認体制：当法人アドバイザーボードメンバーの内2名が、必要書類等を確認する。この確認結果に基づいて、理事会が支給の可否を決定し、その結果を申請者及び宅建業者に通知する。

6. SDGs推進事業—One World, One Life—

誰一人取り残さない社会を目指す国連の SDGs の 17 の目標を達成するため、日本でも政府が“「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現”をキーワードに、あらゆるステークホルダーの参画を重視し、官民の垣根を超えた形で連携を推進する指針を掲げている。

当法人の事業において、SDGs の 17 の目標の多くに貢献してきており、特にゴール 17 の「パートナーシップで目標を達成しよう」というのは、自治体や企業・他団体との連携を図り課題を解決してきたKnots の在り方そのものである。

人も動物も幸せな社会に向けての事業を継続してきた中で、「人もまた生き物である」という視点から生まれた、「りぶ・らぶ・あにまらず ICAC KOBE 2015 第4回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議 2015」のテーマ「One World, One Life—ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく—」を、当法人設立 20 周年を迎えての次のステップへのテーマとした。この概念は SDGs と目標を同じくするものであり、今後もステークホルダーとして更なる貢献ができるよう、行政機関や他団体・企業と連携を図り、SDGsを推進する事業を行う。

SDGsの推進のために必要な様々な情報収集と研究を行い、セミナーや体験活動等の実施を通して人材育成・教育の機会を設ける。希望すれば誰もが学べるよう、リモートでの参加や実施した記録・資料を可能な限りウェブサイトで公開する等、幅広い情報提供を行い、フェスティバル等のイベントにおいても、情報発信を行う。また、SDGsを推進し、誰一人取り残さない社会の実現の為に、必要な相談業務を行い、支援を必要とする人が必要な支援を受けられるよう関係機関と連携を図る。

今年度は、以下の3つを行う。

兵庫県多可町でのSDGs事業推進にあたっては、昨年度6月に多可町と締結した包括連携協定に基づき、多可町役場と協働し、SDGs推進事業における民間側参画企業及び団体の全体コーディネートを担当する他、必要に応じて、個別の事業運営の準備を行う。例えば、多可町では、Society5.0による経済の活性化、多可町の自然を活用した事業の展開、「TAKAみらい学校」の運営等の全体コーディネートを行う事務局対応を担う。

神戸市においては、令和3年度に神戸市北区のしあわせの村に開設された「こうべ動物共生センター」の管理運営業務を行う。仕様書に基づき、アニマルセラピー、子どもを対象にした動物共生教育、飼い方相談、犬猫飼育者支援、身体障害者補助犬の普及啓発等の啓発・教育事業等を担う他、「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築する。受託期間は1年延長され、令和5年3月31日までの予定である。

「ペットも一緒にSDGs!」の 카테고리を作り、SDGsをより一般化する試みー「人とペットとの暮らし」の視点を活かしたSDGsの取り組みを紹介・推進していくーにより、SDGs推進に貢献する。その視点を広めるため、ウェブサイト上で情報発信を行い、呼びかけ・啓発を図る。また、30年以上前からノーマライゼーションに取り組み、すべての人が健康で文化的な活動に参加できるように整備されたSDGs視点を持ったソーシャルインクルージョン（社会的包摂）を目指す複合施設である神戸市北区のしあわせの村内の施設と連携し、ペットと共に体を動かし健康維持を図るような取り組みを通して、高齢者や障害者の生活機能維持・自立の支援を行う。

【その他の連携促進】

IAHAIO

Knots は IAHAIO メンバーになっている。IAHAIO は、人と動物との相互作用の正しい理解を促進させるために各国で活動している学会、協会等の国際的な連合体として、米国の Delta Society（現 PetPartners）、フランスの afirac、イギリスの SCAS が中心となって 1992 年に設立した。IAHAIO の使命は、人と動物の相互作用（Human Animal Interaction=HAI）の分野を進歩させるために、国際的な指導力を提供する。

（参考－関係団体、専門家、行政機関等との連携について）

令和元年度、神戸市生活衛生課が事務局を務める神戸市動物愛護協会より、富永理事長個人の立場での理事就任と同会絵画コンクールへの当法人の名前を冠した賞の設定の要請があり、国内外のその分野の関係団体、専門家、行政機関等へ幅広く連携を求めていく一環として、協力している。令和2年度をもって神戸市動物愛護協会が活動を終了されることとなり、今後は未定である。